

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 四国財務局長

【提出日】 平成26年4月21日

【四半期会計期間】 第35期第1四半期(自平成25年12月21日 至 平成26年3月20日)

【会社名】 株式会社K G情報

【英訳名】 KG Intelligence CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 益田 武美

【本店の所在の場所】 香川県高松市今里町二丁目2番地10
(同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行っております。)

【電話番号】 087(834)3821

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 三上 芳久

【最寄りの連絡場所】 岡山市北区辰巳20番地の113

【電話番号】 086(241)5522

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 三上 芳久

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第34期 第1四半期 連結累計期間	第35期 第1四半期 連結累計期間	第34期
会計期間	自平成24年12月21日 至平成25年3月20日	自平成25年12月21日 至平成26年3月20日	自平成24年12月21日 至平成25年12月20日
営業収益 (千円)	1,083,666	1,054,983	4,691,373
経常利益 (千円)	120,456	88,688	821,130
四半期(当期)純利益 (千円)	70,855	50,030	493,772
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	79,640	40,427	521,104
純資産額 (千円)	6,501,475	6,790,738	6,889,839
総資産額 (千円)	7,768,842	7,995,464	8,294,877
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	9.65	6.80	67.02
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	9.63		66.99
自己資本比率 (%)	83.7	84.9	83.1

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 第35期第1四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 3 営業収益には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第1四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、いわゆるアベノミクス効果もあり、円安、株高が促進され企業収益の改善や個人消費の回復が見られるなど、比較的順調に推移しました。しかしながら、消費増税等の影響が懸念されるなど、その先行きは不透明な状況にあります。

このような中、当社グループは当連結会計年度も前連結会計年度に引き続き、将来の飛躍のための準備期間と位置づけ、新規事業の育成、新規エリアへの進出及び既存サービスのリニューアル等に積極的に取り組むと同時に、一部情報誌の休刊を実施するなど効率の向上に努めました。この結果、営業収益は10億5千4百万円（前年同期比2.6%減）となり、営業利益は7千9百万円（前年同期比24.9%減）、経常利益は8千8百万円（前年同期比26.4%減）、四半期純利益は5千万円（前年同期比29.4%減）となりました。

なお、当社グループにおける報告セグメントは情報関連事業のみであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載は省略しております。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間の総資産は前連結会計年度から2億9千9百万円減少し、79億9千5百万円となりました。流動資産は前連結会計年度から3億2千7百万円減少し、50億6千8百万円となりました。この主な要因は、現金及び預金の減少額2億6千2百万円及び受取手形及び売掛金の減少額6千3百万円等によるものであります。固定資産は前連結会計年度から2千7百万円増加し、29億2千7百万円となりました。これは主に、有形固定資産その他の増加額4千7百万円及び減価償却等による機械装置及び運搬具の減少額1千3百万円、建物及び構築物の減少額1千1百万円等によるものであります。

負債総額は前連結会計年度から2億円減少し、12億4百万円となりました。流動負債は前連結会計年度から1億9千5百万円減少し、8億8千7百万円となりました。これは主に、未払法人税等の減少額1億6千4百万円及び未払金の減少額1億2千万円並びに賞与引当金の増加額5千3百万円等によるものであります。固定負債は前連結会計年度から4百万円減少し、3億1千7百万円となりました。この主な要因は、その他の減少額5百万円によるものであります。

純資産は前連結会計年度から9千9百万円減少し、67億9千万円となりました。この主な要因は、自

己株式の取得による減少額6千8百万円及び利益剰余金の減少額2千万円等によるものであります。この結果、自己資本比率は84.9%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	29,548,800
計	29,548,800

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年3月20日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年4月21日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	7,398,000	7,398,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります
計	7,398,000	7,398,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年3月20日		7,398,000		1,010,036		983,604

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年3月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 (自己保有株式) 22,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,373,800	73,738	
単元未満株式	普通株式 1,300		
発行済株式総数	7,398,000		
総株主の議決権		73,738	

- (注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社の保有する自己株式 45株が含まれております。
- 2 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成25年12月20日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成26年3月20日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社K G情報	香川県高松市今里町二丁目2-10	22,900		22,900	0.31
計		22,900		22,900	0.31

(注) 当第1四半期末日現在の自己株式数は、164,945株であります。

2 【役員状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成25年12月21日から平成26年3月20日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年12月21日から平成26年3月20日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月20日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年3月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,832,208	4,569,336
受取手形及び売掛金	514,513	450,938
製品	3,963	3,683
仕掛品	1,068	1,128
原材料及び貯蔵品	12,391	9,430
その他	34,286	36,528
貸倒引当金	3,076	2,694
流動資産合計	5,395,354	5,068,351
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	680,775	669,162
機械装置及び運搬具(純額)	245,073	231,364
土地	1,600,852	1,600,852
その他(純額)	28,466	76,346
有形固定資産合計	2,555,168	2,577,725
無形固定資産		
その他	22,327	20,373
無形固定資産合計	22,327	20,373
投資その他の資産		
その他(純額)	323,138	330,597
貸倒引当金	1,110	1,583
投資その他の資産合計	322,027	329,013
固定資産合計	2,899,522	2,927,112
資産合計	8,294,877	7,995,464
負債の部		
流動負債		
買掛金	111,594	98,303
未払金	434,773	313,994
未払法人税等	205,332	40,354
前受金	282,105	264,523
賞与引当金	1,564	55,560
その他	47,515	114,816
流動負債合計	1,082,886	887,552
固定負債		
退職給付引当金	64,704	64,840
役員退職慰労引当金	210,101	210,101
資産除去債務	34,855	34,999
その他	12,490	7,232
固定負債合計	322,152	317,173
負債合計	1,405,038	1,204,726

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月20日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年3月20日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,010,036	1,010,036
資本剰余金	983,705	983,705
利益剰余金	4,839,020	4,818,250
自己株式	8,016	76,744
株主資本合計	6,824,745	6,735,247
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	65,093	55,490
その他の包括利益累計額合計	65,093	55,490
純資産合計	6,889,839	6,790,738
負債純資産合計	8,294,877	7,995,464

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年12月21日 至平成25年3月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年12月21日 至平成26年3月20日)
営業収益	1,083,666	1,054,983
営業原価	847,901	851,782
営業総利益	235,765	203,201
販売費及び一般管理費	129,752	123,630
営業利益	106,013	79,570
営業外収益		
受取利息	1,167	1,245
前受金期間経過収入	9,828	8,000
その他	4,881	4,673
営業外収益合計	15,877	13,919
営業外費用		
固定資産除却損	69	3,530
その他	1,365	1,269
営業外費用合計	1,434	4,800
経常利益	120,456	88,688
税金等調整前四半期純利益	120,456	88,688
法人税等	49,601	38,658
少数株主損益調整前四半期純利益	70,855	50,030
四半期純利益	70,855	50,030

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年12月21日 至平成25年3月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年12月21日 至平成26年3月20日)
少数株主損益調整前四半期純利益	70,855	50,030
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,785	9,603
その他の包括利益合計	8,785	9,603
四半期包括利益	79,640	40,427
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	79,640	40,427
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年12月21日 至 平成26年3月20日)
税金費用の計算	税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年12月21日 至平成25年3月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年12月21日 至平成26年3月20日)
減価償却費	36,188千円	30,258千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年12月21日 至 平成25年3月20日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年3月13日 定時株主総会	普通株式	36,521	5.00	平成24年12月20日	平成25年3月14日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成25年12月21日 至 平成26年3月20日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年3月13日 定時株主総会	普通株式	70,800	9.60	平成25年12月20日	平成26年3月14日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年12月21日至平成25年3月20日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成25年12月21日至平成26年3月20日)

当社グループにおける報告セグメントは情報関連事業のみであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載は省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年12月21日 至平成25年3月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年12月21日 至平成26年3月20日)
(1) 1株当たり四半期純利益	9円65銭	6円80銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	70,855	50,030
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益(千円)	70,855	50,030
普通株式の期中平均株式数(株)	7,340,628	7,352,966
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	9円63銭	
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	15,139	
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 当第1四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 4月16日

株式会社K G情報
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 和田 朝 喜 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 千 原 徹 也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社K G情報の平成25年12月21日から平成26年12月20日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成25年12月21日から平成26年3月20日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年12月21日から平成26年3月20日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社K G情報及び連結子会社の平成26年3月20日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。